

# 13 重要古語

□□①

いみじ【程度が甚だしい・ひどく悲しい・大

変恐ろしい】

用例 御心地かきくらし、いみじく堪へ難がたければ（お心は悲しみにくれて、ひどく悲しくて堪えられるものではなかったので）

つぎづきし【似つかわしい・ふさわしい】

（源氏物語）

□□②

つぎづきし【似つかわしい・ふさわしい】

用例 さらでもいと寒きに、火など急ぎおこして、炭持て渡るも、いとつぎづきし（そうでなくともたいそう寒いときに、火などを急いでおこして、炭を持って通つていくのも、たいへん似つかわしい）

（枕草子）

□□③

つとめて【翌朝・早朝】

用例 冬はつとめて。雪の降りたるはいふべきにもあらず（冬は早朝。雪が降っているのは言うまでもない）

（枕草子）

□□④

つれづれなり【することがなく退屈なさま・手持ちぶさた】

用例 つれづれなるままに、日暮らし、硯すずりにむかひて（することがなく退屈であるのに任せて、一日中、硯に向かいながら）

ほい【本来の意志・もとの望み】

（徒然草）

□□⑤

ほい【本来の意志・もとの望み】

用例 ゆかしかりしかど、神へ参るこそほいなれと思ひて、山までは見ず（興味はありましたが、神に参るのがもとの望みなのだと思つて、山までは見ませんでした）

やむごとなし【高貴である・格別である・捨てておかない】

（徒然草）

□□⑥

やむごとなし【高貴である・格別である・捨てておかない】

用例 かくやむごとなくおはします殿の、貫つら之のぬしが家におはしましたりしこそ（このように高貴な身分でいらっしゃる殿が、貫之の家にいらっしゃったことこそ）

殿おのゝみの家にいらっしゃったことこそ）

（大鏡）

□□  
⑦

ゆゆし

【すばらしい・甚だしい・忌まわしい】

【用例】 舍人<sup>とねり</sup>など給<sup>たま</sup>はるきははゆゆしと見ゆ

(舍人など賜るほどの身分の方は、すばらしく見える)  
(徒然草)

□□  
⑧

あさまし 【(良い意味でも悪い意味でも) 驚

きあきれるばかりである・(悪い意味で) お話にならない】

【用例】 このゐたる犬のふるひわななきて、涙をただおとしにおとすに、いとあさまし(このうづくまっていた犬がぶるぶる震えて、涙

をただ落とすに落とすので、ほんとうに驚きあきれるばかりだ)  
(枕草子)

□□  
⑨

あはれなり 【しみじみと感動する・しみじみ

と情趣が深い】

【用例】 野分<sup>のわき</sup>のまたの日こそ、いみじうあはれにをかしけれ(台風の翌日はたいそうしみじ

みと情趣が深い)

(枕草子)

□□  
⑩

あやし

(怪し・奇<sup>あや</sup>し) 【不思議だ・神秘的だ】

【用例】 風雲の中に旅寝することあやしきまで妙<sup>た</sup>なる心地はせらるれ(大自然の中で旅寝をするのは不思議なほどすばらしい気分をする

ものだ)  
(おくのほそ道)

(賤<sup>あや</sup>し) 【見苦しい・身分が低い】

【用例】 あないみじや。いとあやしきさまを、人や見つらむ(まあ大変なこと。ひどく見苦しいさまを人が見てしまっているだろうか)

(源氏物語)

□□  
⑪

ありがたし 【めったにない・立派だ】

【用例】 ありがたきもの。舅<sup>しゅう</sup>にほめらるる婚(めったにないもの。舅にほめられる婚)

(枕草子)

□□12

うつくし【いとしい・かわいらしい】

【用例】 おほきにはあらぬ殿上わらはの、さうぞき立てられてありくもうつくし（体のそう大きくない殿上童が、立派な着物を着せられて歩いてゐるのもかわいらしい）

（枕草子）

□□13

かなし

（愛し）【いとしい・かわいい】

【用例】 翁をいとほしく、かなしとおぼしつることも失せぬ（翁を大切だ、いとしいと思ひになることもなくなった）

（竹取物語）

（悲し・哀し）【なげかわしい・かわいそうだ】

【用例】 限りとて別るる道のかなしきにかまほしきは命なりけり（これを限りとしてあなたと別れて行くのはなげかわしいが生きたいと思う命であることよ）

（源氏物語）

□□14

なかなかなり【中途半端だ・なまはんかだ】

【用例】 なかなかに苦しきまでも嘆くけふかな（中途半端な状態で、苦しいほどに嘆いてゐる今日であることよ）

（和泉式部日記）

□□15

ののしる【声高く言い騒ぐ・やかましくうわ

さをする・威勢がよくなる】

【用例】 御車寄せており給ふ程、「いたう苦しがり給ふ」とてののしる（御車を寄せて下車なさる時、「ひどく苦しんでいらつしやる」と言い騒ぐ）

（源氏物語）

□□16

めでたし【すばらしい・立派である・祝う価値がある】

【用例】 藤の花は、しなひながく、色こく咲きたる、いとめでたし（藤の花は、しなやかに長く、色濃く咲いてゐるのが、とてもすばらしい）

（枕草子）

□□  
□□  
17

ながむ

(眺む) 【物思いに沈んでぼんやりと見やる・

遠くを見渡す】

【用例】 暮れがたき夏の日ぐらしながむればそのこととなくものぞ悲しき(なかなか暮れない夏の日を一日中ぼんやりと物思いにふけていると、何がというのではないがもの悲しいことだ)

(伊勢物語)

(詠む) 【声を長く引いて詩歌を吟じる・詩歌などを作って口ずさむ】

【用例】 「こぼれて匂ふ花桜かな」と詠めければ(「咲きこぼれて美しい桜の花よ」と口ずさんだところ)

(今昔物語集)

なほ 【やはり・さらに・なんととっても】

【用例】 和歌こそ、なほをかきしきものなれ(和歌こそ、なんととっても趣深いものである)

(徒然草)

□□  
□□  
19

やうやう 【だんだんと・しだいに】

【用例】 花もやうやうけしきだつほどこそあれ(桜もだんだんと咲きそうになる頃であるが)

(徒然草)

□□  
□□  
20

やがて 【そのまま・すぐに】

【用例】 夕月夜のをかしきほどに、出だし立てさせ給ひて、やがて眺めおはします(夕月夜の美しい頃に、「使者を」出発させなされて、そのまま物思いに沈んでぼんやりと見ていらつしゃいます)

(源氏物語)

□□  
□□  
21

ゆかし 【心がひきつけられる・なつかしい】

【用例】 そもそも、参りたる人ごとに山へ登りしは、何事かありけん、ゆかしかりしかど(そもそも、参詣する人が皆山へ登るのは、何事かあるのだろうか、気になったけれど)

(徒然草)

□□  
②②

をかし【趣がある・優れている・こっけいだ】

用例 雁かりなどのつらねたるが、いとちひさく

みゆるはいとをかし（雁などの連なっている

様子が、とても小さく見えるのはとても趣が

ある）（枕草子）

□□  
②③

否定の「え」【下に打ち消しまたは反語の言

い方を伴って）ゝすることが

できない・十分にゝしない】

用例 人のそしりをもえはばからせ給はず

（他人の非難に気兼ねすることもおできにな

らず）（源氏物語）

□□  
②④

なゝそ【ゝするな（禁止の意を表す）】

用例 昔思ふ草のいほりの夜の雨に涙な添へ

そ山ほととぎす（過去を悲しく思い出してい

る粗末な小屋での夜の雨に涙を添えてくれる

な、ほととぎすよ）（新古今和歌集）

# 第1回

高校入試必須事項の完成

## 基本完成チェックテスト

名前

国語

制限時間

15分

MINIMUM  
REQUIREMENT

MR

1 【漢字の読みとり】 次の——線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- (1) 窓から夕日を眺める。
- (2) 会場の雰囲気に圧倒される。
- (3) 今日までの恩恵に報いる。
- (4) イベントの参加者を募る。
- (5) 文章の体裁を整える。
- (6) 彼はチームの優勝に貢献した。
- (7) 過去の遍歴を顧みる。
- (8) 新事業への参入を示唆する。
- (9) 湖の澄んだ水に感動する。
- (10) 布に覆われた箱を見つける。

2 【漢字の書きとり】 次の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- (1) エンソウ会のチケットを手に入れる。
- (2) 象が長い鼻で水をアびる。
- (3) 長距離走のタイムをチヂめる。
- (4) 用事がスむまで待つ。
- (5) 長年のヤクソクを果たす。
- (6) 河川敷のごみをヒロウ。
- (7) まじないをトナえる。
- (8) 突然の贈り物に妹がテれる。

- (9) 白い布が藍色にソまる。
- (10) 注文した品が家にトドく。

3 【同音異義語】 次の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- (1) 問題のカイホウを研究する。
- (2) 病人をカイホウする。

4 【同訓異字】 次の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- (1) アタタかいスープを飲む。
- (2) アタタかい春が訪れる。

5 【常用漢字表 付表の語】 次の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- (1) 行方
- (2) 時雨

6 【対義語】 次のそれぞれの二つの熟語が対義語になるように、□の中に漢字を一字入れなさい。

- (1) 栄 □ ↔ 左遷
- (2) 一般 ↔ 特 □

7

【四字熟語】 次の四字熟語の意味を後から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- (1) 一石二鳥
- (2) 千差万別
- (3) 一朝一夕
- (4) 有名無実

ア わずかの時日・期間のたとえ。

イ 評判ばかりで、内容・実質が伴わないこと。

ウ 一つのことをして二つの利益を得ること。

エ 多くのものがそれぞれ違っていること。

8

【慣用句】 次の意味を表す慣用句を書きなさい。

- (1) ほっと安心する。
- (2) 突然のことに驚くこと。
- (3) 相手の言い間違いや言葉じりをとらえて責める。

9

【ことわざ】 次の意味を表すことわざを書きなさい。

- (1) 去るときにきれいに後始末をする。
- (2) 悪いことはたちまち世間に知れ渡る。
- (3) 風流よりも実利を好むこと。

10

【故事成語】 次の意味を表す故事成語を漢字を使って書きなさい。

- (1) 双方が争っているすきにつけ込んで、第三者が利益を横取りすること。
- (2) 余計な付け足しをすること。あつても無駄なこと。

11

【入試類出文法】 次の各文を文節に区切り、その数を書きなさい。

- (1) おもしろくない映画を見てしまった。
- (2) 新しいノートに初めて文字を書くときはいつも緊張する。
- (3) 僕はうんざりして引き返した。
- (4) 幼稚園に行っていたときであった。
- (5) 信号が赤だったので交差点の歩道に立ち止まった。
- (6) ある夏のむし暑い日のことだった。

12

【文学史】 次の文学作品名を書きなさい。

- (1) 舎人親王・太安万侶らが編纂した歴史書。
- (2) 柿本人麻呂・山部赤人らの歌を収録した最古の歌集。

13

【重要古語】 次の古語の意味を後から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- (1) つきづきし
- (2) いみじ
- ア 中途半端だ。なまはんかだ。
- イ めったにない。立派だ。
- ウ やはり。さらに。なんととっても。
- エ 似つかわしい。ふさわしい。
- オ 程度が甚だしい。ひどく悲しい。大変恐ろしい。